



～ 命の尊さについて考える参観授業 ～

2日(火)は、「いのちの教育週間」にちなんで、すべての学級で命の大切について考える授業を行い、保護者のみなさんにも参観いただきました。授業の内容や子どもたちの様子はいかがだったでしょうか。

“命の尊さについて考える”と言っても様々な視点があります。例えば、生命の誕生を取り扱った授業では、10か月にも及ぶ胎児の発育過程を知ること、自分の命が何物にも代え難い大切なものであることに気づき、自分の命を大切にしようという態度や保護者への感謝の心を育むことをねらいとしていました。

一方、人との接し方に視点を置いた授業では、物語の登場人物になったつもりで気持ちを考えさせたり、これまでの自分自身を振り返らせたりしながら、望ましい人間関係づくりについて話し合いました。



これらの学習では、次の2点を踏まえることがとても大切です。

- ① **自分を大切に思うこと・かけがえのない存在だと感じること**
(“自己肯定感、といいます)
- ② **同時に、他の人も自分と同じように大切にかけがえのない存在だと認め合うこと**
(“アサーティブネスな関係、といいます)


これらの心や態度は、授業だけで育まれるものではありません。その後の学校生活や周囲とのかかわりの中で、授業で学んだことをどのように生かそうとしているか、これまでの自分をよりよく変えようとしているかを見守り、成長がうかがえる場面を見受けた時に「あの学習を思い出したんだね」とひとこと添えてあげる。その瞬間、その子の自己肯定感や道徳性はぐんとアップします。

ぜひ、ご家庭でも参観授業の内容を振り返らせながら、命の大切さ、友達や周囲の人との接し方について話題にいただき、学校での指導を家庭での子育てに結び付けていただけるとありがたいです…



「宮崎県いのちの教育週間」

～実践例～



7月第1週は「宮崎県 いのちの教育週間」です!

- ◆ 「いのちの教育週間」を設定した理由

夏休み明けに子どもたちが元気に、そして笑顔で登校できるよう夏休み前の7月の第1週を「宮崎県いのちの教育週間」と設定しました。
各学校で、この週を中心に「いのちの教育」を重点的に行うことで、県下一斉に「いのちの大切さ」について考える機会としました。
- ◆ 目指す子どもの姿
 - 生まれてきてよかったと思い、いのちにかかわるまわりの人・ものに感謝する子ども
 - 自分のいのちを大切に、いのちいっぱい生きる子ども
 - いのちがつながっていることを実感する子ども

